

あゆみ通信

VOL. 193

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会)推薦連絡協議会
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

第2組聞法会開幕



第2組が当初から堅持している組内の住職や寺族、そして門徒による共同教化に3つの柱があります。

一つは3月に実施された同朋大会です。二つにはこれから始まる聞法会です。そして三つ目が、合同報恩講です。

そして、いよいよ今月から第2組聞法会がスタートします。

真宗大谷派にとって、聞法と言うのは、宗祖親鸞聖人や蓮如上人が、力を入れられた大事な仏事です。

昨年から『初めての正信念仏偈』をテキストに、「依経分」を学んできました。『仏説無量寿経』についてでした。今年は「依積分」で、七高僧について学びます。体調を整えながら、ぜひご参加ください。お待ちしております。

第1回

日時 **5月24日(土) 14:00**

会場 稱念寺(天王寺区夕陽丘)

第2回

日時 **6月17日(火) 14:00**

会場 専行寺(天王寺区堂ヶ芝)

講師 大橋 恵真先生

(18組遠慶寺住職)

教材『初めての正信念仏偈』

お持ちでない

方は、会場で

参加費 500円

大橋恵真先生→



大阪教区宗祖親鸞 聖人御生誕850年・ 立教開宗800年慶讃 法要に分散して団 体参拝



4月17日(木)～20日(日)に開催された大阪教区宗祖親鸞聖人御生誕850年・立教開宗800年慶讃法要に、第2組から分散して団体参拝が行われました。ちなみに、自分(事務局)は、4月19日(土)の参詣でした。当日は組内の住職や坊守、寺族39名が参加しました。午後1時に山門前に集合して、本堂内の座席に座り、午後2時からの法要に参詣しました。

真宗宗歌で開会、禿輪番のご挨拶。大谷裕新門による表白。そして散華。参加者全員で同朋唱和。

休憩後は東大谷高校堀口君による感話、続いて高橋源一郎氏(作家・明治学院大名誉教授)による法話がありました。先生は、お墓事情が無縁社会の現代のを表して、お寺が新しい縁を作るべきと話され、今こそ出番ですよ。恩徳讃を斉唱して閉会となりました。

紙上法話

和国の教主⑥

親鸞聖人における聖徳太子親
池田 勇諦先生
同朋社会の顕現

それでは、親鸞聖人においては
どういうことなのか。親鸞聖人は
どういう国家を願われたのか。

親鸞のことば

ただ言じると言うことが、
なかなか難しい

かなしきかなや道俗の
良時吉日えらばしめ
天神地祇をあがめつつ
ト占祭祀つとめとす

正像末和讃

「良時吉日」とは良し時。「天神地祇」とは天と地の神様をさします。「ト占祭祀」は占いや祭ごとの意味です。

私たちは、外の力を恐れ、良し時を選んだり、悪い時を避けるなどして生活し、天地の神様を崇めて祭りごとをするものです。また占いに頼るのは、不安の現れでしょう。そのような在り方を親鸞は歎いています。

結婚式だったら大安を選んだ方がいいとか、その年の吉凶をおみくじで占うとか、なんの根拠もないにもかかわらず、それらにとらわれ、一喜一憂したりするのは空しいことです。新年におみくじを引いて大吉を引いたら、一年中落胆して過ごすのでしょうか。念仏ひとつで十分なのに、この日がよいとか悪いとか、占いなどに左右されてしまう私たち。シンプルな教えながらこそ、信じるのが難しく、「道俗出家と在家」にかかわらず、僧侶までも何か仏教で何か迷言なのか分からなくなっている。このことを親鸞は悲しみ、念仏せよと繰返し説くのです。(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より)

お朝事に思う 2

幼くして亡くなった弟・妹を思って。母が亡くなってから、叔母の話を聞いて。戦争末期、僕父と叔母の長屋で。母と幼い弟は、父の縁ある滋賀の能登町の親戚で疎開していた。そこで弟が病に罹り、戦時中の田舎の医療ではどうすることもできず亡くなったという。当時の滋賀県に葬り、母は大阪まで帰ると、ねねこころで、おんぶして、国鉄で帰る途中、隣の奥さんから「可愛ね、寝ねしているのね」と言われ、涙したとか。母は、僕が何話もなかった。そんな母を思いやることもなく、
「我にとらわれて、一人息子を養育してこまめなことを付けさせたのも、教えがけのこと。」

「世のため安んずられ、仏法に生まれ」
(本)

親鸞聖人は、御同朋御同行の世界を願われたのでしょうか。そのことを現代において



では様々な言い表し方が出来ましようけれども、『真宗大谷派宗憲』の精神から申しますと「同朋社会」ですね。前文に「すべて宗門に属する者は、常に自信教人信の誠を尽くし、同朋社会の顕現に努める」とある通りです。そうすると、親鸞聖人があきらかにされた国土、それは私たち一人ひとりがあきらかにしなければならぬ課題だと言うことなのですね。私たちがその自覚に立って生きる者とならなければいけない。そう言う重大な事柄なのです。

根っこが一つ

話を元へ戻しますと、「世界統一的国家」の「統一」と言うことも、例えば上の、頭のところで統一することになると、ファッショ(全体主義。個人の権利や利益、社会集団の自律性や自由な活動を認めず、すべてのものを国家の統制下に置こうとする主義。独裁や専制政治などと同義に用いられる)になります。上の方であらゆる人々を束ねようとするのですから、そもそもファッショとは、「束ねる」という意味なのです。そうすると、根源的には浄土、日本の国、同朋社会と言う展開ですけども、例えて申せば上の方ではなく、根っこが一つと言うことです。根っこ、「万物同根なるが故に万物一体なり」という有名な言葉もあります。が、私たちは根っここのところで、はじめて真に「統一」されるのです。

先程申し上げた清澤満之先生がおっしゃっている「世界統一的文化」の二つの流れ、西洋的文化の流れと東洋的文化の流れが明治維新期の我が国において、奇しくも出遇ったのだと。このご指摘は言いかえれば、西洋の科学的知性と

東洋の人格的智慧が出遇わない限り、人類に未来はないと言うことです。ですから、現代の危機と言うことが直しく言われていますけれども、この両者の出遇いが欠落し覆われてしまっているのです。そこにこうしてご縁を頂戴している私たちの本当の使命が改めて感ぜられます。そう言う真の「統一」を開く出遇いは、根っこにおける「統一」なのです。バラバラなものを頭上で束ねることではありません。根っこが一つ。蓮如さんの500回御遠忌のすがいマが「バラバラでいっしょー差異をみとめる世界の発見一」でした。当時の宗務総長は、小松の能邨英士氏でしたが、このテーマをみんなでじっくりあたためていってほしいと言うことを非常に強調されておられました。「バラバラでいっしょー差異をみとめる世界の発見一」。根っこが一つ、万物同根と言う一点に目覚めさせていただくところにこそ、ほんとうの「統一」がある。ですから、これから統一するのではないのです。既に統一されていることを私たちは見失っているのです。ですから、そのことにあらためて眼を開くと、既に統一されていることに回帰する。還ると言うことでしょう。そういうことをこのテーマは私たちに提起してくださっていると強く感ずるので

二種深信

真の「統一」、根っこが一つと言うことの見開きについてですが、訪ねてくる人に向かって暁烏先生が言われていたお言葉を私は間接的に聞いております。暁烏先生を訪ねてくる人は、一人ひとりが苦しみや悩み事を引っさげている。そう言う人々に対して、暁烏先生はどうおっしゃったか。二つのことをおっしゃられた。

一つは、「アンタが苦しいのはな、アンタがアンタの居り場所におらんからや」。もう一つは、「もともとアンタっていうもんは、居らんがや」。この二つであったと言うことを私は聞かされております。

皆さん、いかがですか。我々が苦しむ、悩む。そういう時は、

大推協通信

公開講座ご案内

大推協(大阪教区同朋の会推進員連絡協議会)では、親鸞聖人の教えを、自身の依り処とすべく、聞法活動に取り組んで、その一つに公開講座を開催しています。今回、2回目の公開講座を下記の通り行います。皆さんのご参加をお待ちしています。

記

日時 6月16日(月) 14:00
会場 難波別院同朋会館講堂

(地下鉄本町駅下車。13番出口を南へ200M)

講題 「教えられ学ぶ」

講師 里雄 康意先生

(元真宗大谷派宗務総長・大垣教区第17組緑林寺住職)

参加費 無料

問合せ先 大阪教務所

(06-6251-4720)

「アンタがアンタの居り場所におらんからや」。つまり、自分の座から外れているから、苦しいのや。悩まなければならぬのや。こういうご指摘なのですね。そして、同時に「もともとアンタっていうもんは、居らんがや」。これは、教えの言葉で申せば、機法二種の深信に重なるのだらうと感じます。

「アンタが苦しいのはな、アンタがアンタの居り場所におらんからや」。これは機の深信の世界でしょう。そして法の深信からすれば、「もともとアンタっていうもんは、居らんがや」。

皆さん方、このことが感ぜられますか。これは、大乘仏教の言葉で言えば、「空無我」でしょ。

「空無我」とは、「何も無い」と言うことではないのですよ。私が捉えているような私はいない。私が考えているようなアテになるような私はいないと言うことです。私たちは無意識のうちにアテになる自分をしっかり持っているのです。そして、この自分を固めようと仏法まで聞くわけです。まったくもって、あべこべですわ。仏法を聞いて私を固めるのではなく、仏法とは私が破られることですものね。(つづく)